

やまたらけ

YAMADARAKE

MARCH
No. 80
2017

早川町の村を歩いてみ

ると、「これは何だろう」と

気になるものが見つかります。

道端にある祠と捧げられた弓矢。

畑の隅に挿してある小さな色

紙の御札。屋根の上に置

かれた竹の輪っか。集落

の入り口近くの木に掛けら

れた御札。

それぞれに意味があり、そこに

暮らす人が毎年準備しているもので

す。村に暮らしてきた人たちの様々

な願いや祈りが、形になって現れて

います。早川町には、人間や生き物

だけでなく、いろいろな神様やご

先祖様も、一緒に暮らしてい

るような気がします。

(大久保実香)

暮らに息づく願いと祈り



▲山の神の祠。こことは別だが、以前、林道沿いの祠が無くなったが1年ほどして戻ってきたらしい。持っていった人にバチが当たり戻しに来たんだろう、とのこと。



▲山の神に奉納する弓矢を作る守さん。子供が遊び道具にした頃はバネのある木の材を使ったが、今はスズタケを材料にしている。



▶山の神さんの日に行われた忘年会(2016年12月17日)。かつて、4組がそれぞれに山の神講を行っていた時から引き継がれてきた掛け軸が飾られる。

山の神様 一奈良田一

山の神は、早川町内でも多数の集落にあります。奈良田在住で現在も山に入って狩猟をされている深沢守さんに、奈良田の山の神についてお話を聞きました。

奈良田には、山への入り口や尾根筋に、少なくとももうか所、小さな祠があります。奈良田の人達は、この「山の神」の前を通る時、花の枝や青い葉の枝を1本をお供えし、「南無妙法蓮華経」と唱えて山に入ります。

12月17日と1月17日は「山の神さん」と呼ばれる日で、現在も、忘年会と新年会を兼ねて、公民館に奈良田の皆さんが集まります。12月17日はお酒とみかんとおシンメエ(紙垂)を、1月17日は手作りの弓矢を、山の神の祠に家長が奉納します。1月は、自分の家の一番高い木の枝にも弓矢を吊るします。1月21日は「山の神様が弓を引く日」と言われ、守さんは今もこの日は山に入らないことにしています。

かつて、弓矢は子供が競って取り、遊び道具にするものでした。昔はこの

家も弓矢を奉納していましたが、今はそうでもないようです。焼畑や曲げ物を生業としていた奈良田では、「全て生活は山に関わっていた」と守さん。生活様式が変わる中、山の神との付き合い方も変わってきたようです。

普段から狩猟などで山に入る守さんには、「山の神はいるって思った。本当にそう思った。」というエピソードがあります。守さんの相棒である優秀な猟犬が、猟から帰らず見つからなくなってしまった時のこと。何日も必死で探し回り、もうあきらめかけた時、守さんは山の神の祠の前で、「キューン」というかすかな声を聞きます。その声を頼りに、滝壺のそばで行き場をなくし動けなくなっていた愛犬を見つけることができました。

後で考えれば、谷の下からの鳴き声が、山の上の尾根で聞こえるはずもない。この時のことを振り返って、守さんは、「山の神様の祭りにかかさずお参りしておいて本当によかった。『山の神は実在すると確信し、感謝の気持ちが込み上げてきた。』と書き記しています。」

蟲封じ 一古屋一

夏の施餓鬼の時に色紙の御札が配られ、これを畑にさして虫よけにする習慣は、早川町でもいくつかの集落で見られます。古屋の蟲封じについて、金井海浄さんと望月美佐江さんにお話を伺いました。

畑の角に、何やら文字の書かれた長方形の色紙が刺さっていることがあります。この御札を準備するのは、浄蓮寺の住職、金井海浄さん。御札に書かれる



文字はどれもお経の一部分で、頭の中でお経を唱えながら、墨をすって書きあげます。折って付ける白黒の紙は、購入した御札。「買ったもの、他人の手で作られたものだから、お経をあげなくちゃ効かない。」と、一枚一枚気持ちを込めて、お経をあげます。集落の当番が用意した竹に縛って、御札の完成です。

蟲封じの御札をつくるのは、8月16日の川施餓鬼に向けた1年に1回だけ。テレビの取材で他の時期に作ってほしいと頼まれたことがあります、やらなかったそうです。

蟲封じの御札を畑に刺している美佐江さんに「効きますか?」と尋ねてみると、「何とも言えない。」とのこと。美佐江さんの家では、消毒などの対策が間に合わず、5月頃、山葡萄の畑にイモムシがついてしまうことがあります。イモムシがつけば、新芽を全部食べられ



▲畑の隅にさされた蟲封じのお札。風雨でぼろぼろになってしまうが、「雨で溶けて、それが畑の土に入って、虫を抑えてほしいと思ってる」と海浄さん。

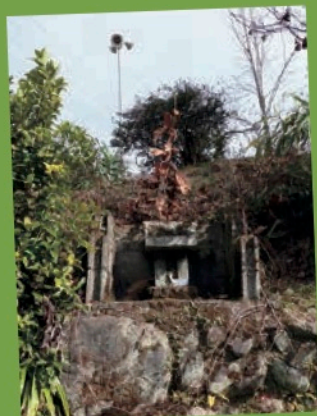
たり、そこから他へ飛び火してしまう心配があります。1匹1匹ムシを退治しますが、御札にもすがっているそうです。

「農家の心の拠り所、というか。」「気持ちだと思っのね。虫が付く付かないは別として、農民としては、神にも仏にもすがりたい、っていうのがあるじゃない。」

古屋で見つけた神々様

各家でお祀りしている神様もあります。家の敷地やそばでは、屋敷神様の祠が見つかります。

古屋の屋敷神様は、毎年年の瀬に、海浄さんが金の色紙で幣束を切り、それぞれ御札を新しい幣束で着せ替えます。美佐江さんの家では、松飾り、鏡餅、みかん、干し柿を、12月30日に家の裏にある屋敷神様の祠の前に飾って、新年を迎えます。「望月家を、一切合切守ってもらう。仏様にも守ってもらうけど。」と美佐江さん。



▲美佐江さん宅の屋敷神様。家の裏の斜面にある。

美佐江さんの家には、屋敷神様の他にも神様がいます。お米を炊いた時には、神棚、仏様、お荒神様にお供えします。大黒様にも、毎朝、お水をあげます。さらにお正月には、「お正月さん」と言っ、神棚とは別の棚に、鏡餅、みかん、干し柿、お米、塩、しめ縄、松飾りの準備をします。しめ縄などのお正月飾りは、お正月が明けると玄関の前の柿の木にくくり付けます。

早川にほど近い竹藪の中に、水

神様の祠があります。子供がた

さんいた頃には、

川や水場での事故もあったそう。川は今よりも深く、カップが出ると親に聞かされました。海浄さんも泳いでいたら流されてしまい、年上の子に助けてもらったことがあるそうです。

湧水が出ている「沖の川戸」にも、水神様の祠があります。ここは古屋の水道の取水口になっているのですが、そばにあるポンプ室にも新しいオシンメエが貼られていました。「水がないと一番困る。火が出た時にも、水がないと困る。」毎日何事もなく水が使えることへの感謝と願いが感じられます。



水神様(右)と
文殊様(左)



大黒様



荒神様

辻固め 一 赤沢

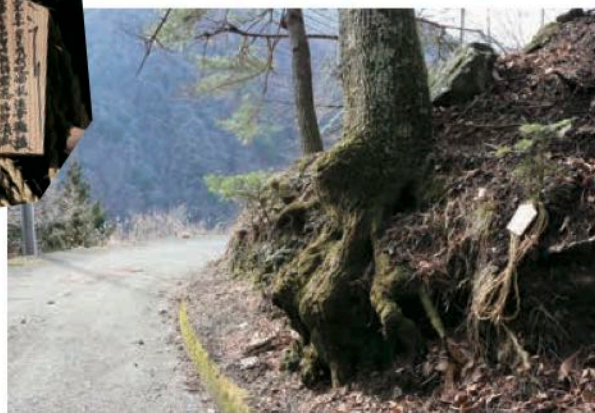
赤沢と小縄で、集落の入り口に掛けられたお札を見つけました。赤沢の杉山美智子さん、内藤なつ子さんにお話をお聞きしました。

赤沢では、集落の入り口に当たる2か所に、毎年、1月31日に新しい木の御札を取り付けます。これには、悪い病気や悪い人が入ってこないようにという意味があります。昔は、道路を挟んだ2本の木の間に縄を張り、その縄に御札を取り付けていました。車の往来が多い今は、邪魔にならないよう、片側の木に縄と御札とを掛けています。

御札は、当番が作った木の板に妙福寺のお上人にお経を書いてもらいます。縄は例年杉山さんが、左縄(祭事などに用いる左廻りの縄)を手でなっています。

効きますか?とお聞きすると、「効いてるじゃないですかね(笑)。流行り病気もやってこんよ。」とのこと。七面山登山の宿場として、たくさんのお客さんを迎え入れてきた赤沢。悪いものが入って来ないように、との思いは、他の集落以上に強いのかもしれません。

集落の入り口に当たる場所に、さりげなく御札と縄がぶら下げられている。



小正月 一 茂倉

小正月の頃、集落の道祖神のそばにヤナギが立ちます。竹や藁縄、色紙や半紙などで手作りされたヤナギは集落ごとに形が違い、個性豊か。ヤナギのそばで行われる茂倉のどんどん焼きにお邪魔しました。

茂倉では、正月が明けると、小正月の準備が始まります。女性たちは1月3日に公民館に集まり、ヤナギの先に付

ける飾りつけであるオサルを縫います。男性たちは、小正月に間に合うようにヤナギを立てます。ヤナギの材料に使われるのは、子供たちが書いた書初め。昔は、あちこちの親戚の家に子供が書初めを配りに行ったそうです。「習字を書いて持ってくる」と、鉛筆やノートと換えた。今は千円札(笑)。

1月14日、ヤナギの下で獅子舞が舞われ、その後、どんどん焼きが行われます(表紙写真)。火がヤナギの下で高く燃えると、書初めを書いた子の字が上達すると言われています。そのおかげかどうか、「書道なんて、うちの子、師範までいったよ。」という声が聞かれました。

翌日の朝、どんどん焼きの灰を少しもらいに行きます。小豆が入った十五



▲茂倉のどんどん焼き。各家で作ったお団子を持ち寄り、火であぶって頂く。甘酒なども振る舞われ大賑わい。

こんな神様もあった!

薬袋の水野忠男さんから、昔の神様の様子を教えてくださいました。

くじ神様

薬袋から少し上ったサクランテラ(桜平)にある山住(やまずみ)神社は五箇地区全体でお祀りする神社で、「くじ神様」がお祀りされていました。くじ神様には、小さな穴の開いた鉄の筒が置いてありました。筒の中には3本の鉄の棒が入っており、そのうち1本だけに刻印がありました。お願いごとがある人は、一生懸命願って、このくじを引きます。刻印のある棒が出れば願いが叶うと言われていました。

大正から昭和初期には、徴兵検査で甲種合格でも、兵隊の必要数と国家予算からくじ引きで兵隊数を制限したそうです。くじ逃れになれば働いて家族を養えるため、その頃はくじ神様が大切に信仰されたようです。

五箇中から人が集まり相撲を取ったりする



▲くじ神様のお祭りで、子ども相撲をとった後の記念写真。左の大人が軍配を持っている。行司役を務めた人か。子どもたちの何人かが、賞品のようなものを持っている。

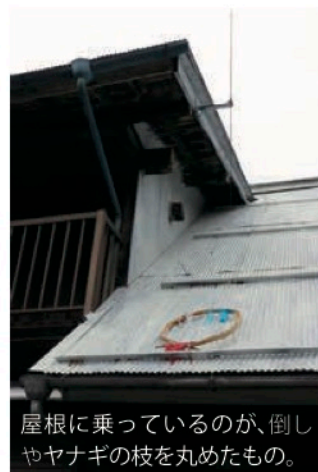
茂倉集落の雨乞い

茂倉では、雨乞いをすることもありました。「あーめを降ーらしたーまいなー」「せーいを出して請え申せ」「うーえんやーまのてんぐーさん」「しーたの河原の水神さん」と歌を歌いながら、鐘や太鼓を持って輪になって巡ります。

歌で音頭を取るのは、機転の利く口の上手な人。「オーキンカワラのトミさん」が一、セツパを叩いてよろこんだ！、こんな歌詞もありました。オキンカワラのトミさんとは、茂倉川で製材所をしていた方。川の水を使い水車で製材をしていたトミさんが、雨が降ると木の端切れ（セツパ）を叩いて喜んだ、という内容です。

まず集落にある国玉神社で、それでも降らなければ山を登ったグラウンドで、まだ降らなければ御殿山の上でと、だんだん高いところで雨乞いを行いました。区長が声をかけ1軒1人は出る義務人足でしたが、皆で声を出して鐘や太鼓を叩くのは、楽しみでもありました。ちょうど雨が降りそうな頃に雨乞いをしていれば、そのうちに曇ってくるものだったそうです。

しばらく行われていなかった雨乞いですが、平成25年の日照りが続いた時には、「時間もあるし、遊んでいてもあれだからしょうって言って」グラウンドと、御殿山へも行って、有志の衆で久しぶりに雨乞いをしました。「そうしていれば降ってきたから、すごいじゃん」と望月利子さん。茂倉のおてんぐさんは、ご健在のようです。



屋根に乗っているのが、倒しやヤナギの枝を丸めたもの。

日ガユを食べたら、そのお茶碗を洗った水にその灰を入れ、「ナガムシ来るなへび来るな」と言いながら家の周りに撒きます。ナガムシとは、ムカデのこと。

と。一種の虫除け、厄除けでしょうか。ヤナギは、1月末頃に倒します。ヤナギを飾るオサルのうち、子供を背負ったサルをもうつと子を授かると言われるています。ヤナギを作るのに使った竹は、輪っかにして各家の屋根の上に乗せます。これには、火伏せの意味があります。

今年も一年を無事に過ごせますように、いい一年を迎えられますように、という願いが、様々な小正月の行事に込められているようです。

暮らしに息づく 願いと祈り

山から無事に戻れますように。畑の作物が虫に食われず育ちますように。火事が起こりませんように。悪い病気が村に入ってきてませんように。願いや祈りの形の中に、村に住む人たちの様々な思いが垣間見られます。

もちろん、現在を生きる早川の人達のことで、すから、「神頼み」だけでない対策や努力もしています。ですが、どうにもならないこともある。どうにもできないこともある。そのことを承知しているからこそ、引き継がれてきた当たり前のやり方で、願いや祈りを形にし、何かしらの拠り所になっているように思えます。

人の生き死にや災害のように、いつの時代も、人間の力ではどうにもできないことがあります。願いや祈りのあり方は、それと向かい合い、折り合いをつけていく術であり、だからこそ、今もなお、早川の暮らしに息づいているのではないのでしょうか。

（大久保実香）

「くじ神様のお祭り」もありました。山住神社の建物は昭和34年の伊勢湾台風で倒壊してしまい、くじも今ではどこにあるかわからないそう。

おかげさま

探し物が見つからない時、葉袋では、「おかげさま」をお願いしたそうです。昔は、各家にヒジロ（囲炉裏）があり、そこには、鍋を吊るすカギ（自在鍵）がありました。探し物が見つからない時は、そのカギを藁で縛って、見つけてくださいとお願いし、探し物が見つかった時にその藁を外したそうです。



おばあさんのお勤め

忠男さんのおばあさんは、毎朝日が昇ってくると、太陽を拝んでこんな言葉を唱えていたそうです。「にってんじ様」が「にってんじ様」お山の神様、妙法神様、ひとえに願ひ奉ります。大難は小難、小難は無難にお逃したまえ。」

ご祈祷題目

葉袋では、病気の人が危篤状態になった時に、親戚や集落の衆が集まって南無妙法蓮華経を唱えたそうです。回復を願うというより、亡くなることは承知の上での供養のためのお題目で、「ご祈祷題目」と呼ばれました。



4月 15・16日

はやかわ山里体験ツアー 山菜野草を採集しよう



春は芽吹き季節。南アルプスの麓の山里・早川町にも春の訪れを告げる山菜や野草が芽吹き出します。

タラノメやワラビといった王道の山菜から、イタドリ、オニグルミ、カキドオシ、コゴミ、ウコギ、リョウブなど様々な野草を採集しましょう。地元の方と一緒に山に入り、採り方を教えてもらいます。

スーパーに並ぶ畑で採れたものと違って、貴重な山の幸を自分の手で採集して、採れたてを食べるのは格別です！

日程／2017年4月15日(土)
-16日(日)の1泊2日

対象／中学生以上

参加費／大人 14,000 円
(1泊3食付・税込)

定員／16名

締切／2017年4月12日(水)
※定員になり次第締切

南アルプス生態邑
主催イベント。宿泊
場所は、どちらも早
川町営ヘルシー美
里です。



<問い合わせ・申し込み>

南アルプス生態邑 ヘルシー美里

電話：0556-48-2621 / FAX：0556-48-2622

イベント詳細 <http://www.hayakawa-eco.com/>

E-mail：info@hayakawa-eco.com

4月 28日～5月6日

ゴールデンウィークファミリープラン！



ゴールデンウィークは自然豊かな早川町ですごしましょう！

真っ暗な森へ懐中電灯を持って出かける「夜の森探検」や、野鳥を観察したり、木漏れ日の中を歩く「昼の森探検」を毎日開催！ほか

にも、ネイチャークラフト(別途有料)や郷土カルタ大会など、子どもも大人も一緒に楽しむことができる体験がいっぱいです。

日程／2017年4月28日(金)
～5月6日(土)の間の
1泊2日

対象／制限なし

参加費／大人：9,000 円

子ども：8,300 円

※どちらも1泊2食付・

税込

締切／各宿泊日の3日前まで



5月 28日 いいもの、うまいものが大集合！ 春の早川大トラねこ市

町の観光物産推奨品をはじめ、農産物や雑貨等様々なお店が出店します。詳細は、早川町観光協会のwebサイトをご確認下さい。



日時／2017年5月28日(日)
場所／早川町立早川南小学校
グラウンド

時間／10:00～15:00

詳細は、下記 URL を
ご確認ください。

<http://hayakawakankou.daa.jp>

<問い合わせ>

早川町観光協会

電話：0556-48-8633



浜田屋商店
電話 0556-48-2311

早川町で感動体験を・・・
南アルプス生態邑
光源の里温泉 ヘルシー美里
南アルプス邑野鳥公園



ご予約・お問い合わせ
TEL/0556-48-2621

<http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/>



生命保険、損害保険のことなら

株式会社・さいとうエージェンシー
tel.055-280-3360 fax.055-280-3361

自動車販売、オートリース、レンタカーのことなら
有限会社・S・T・E・P
tel.055-280-3350



〒400-0422 山梨県南アルプス市荻沢 1356-1

防災
用品

非常用アルファ米・保存水・発電機
簡易トイレ・防災用毛布・テント等

オフィス事務機(有)

〒409-3244

山梨県西八代郡市川三郷町岩間 2077

TEL.0556-32-1003 FAX.0556-32-1004

霊峰七面山の登山口であなただの旅を支える

株式会社
俵屋観光
バス ジャンボタクシー

有限会社
俵屋旅館
宿泊 宴会 法事などに

〒409-2732
山梨県南巨摩郡早川町高住 621
電話 0556-45-2500

南アルプス街道の交通安全と
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに
地域社会の発展に貢献する事を目指します。

早川砂利協同組合

理事長 井上聡一郎

山梨県南巨摩郡早川町小縄 26

電話 0556-45-2450

ヴィラ雨畑
「信玄おやき 甲州肉みそ」新発売！

豊かな水と緑が育てた山梨の味「信玄豚」を、早川特産の「白鳳味噌」で味付けしました。隠し味に、国産野沢菜とタマネギ、そして山梨県産赤ワインも使用。

山梨県の旨味が詰まったおやきです。ぜひ、ご賞味ください。



価格／220円(税込)
※お持ち帰り可
お問い合わせ：早川町雨畑699 ☎0556-45-2213

**この春、早川に
新しい味覚が誕生！**

**赤沢宿「宿の駅 清水屋」
名物の「豆餅」がリニューアル！**

赤沢の各家庭に代々伝わる、伝統の甘い豆餅。具材、作り方は、各家庭で違いますが、清水屋では黒豆、ナッツ類、青のりなど数種類の具材を入れています。ほんのり甘く、コクがあり、クセになる美味しさです。ぜひ一度どうぞ。



価格／3枚セット500円
※お持ち帰りはできません。
お問い合わせ：
早川町赤沢193
☎0556-45-3232

**3月11日～5月21日
日本画展「赤沢宿と日本、世界の後世に伝えたい風景。」開催中**

日本画家・棚町宜弘氏の赤沢宿の作品を中心に、日本全国、世界各地の風景画を展示。4月15日、5月5日に、ギャラリートークを開催予定！詳細は下記参照
<http://akasawasyukusimizuya.blogspot.jp/>



**古民家カフェ「鍵屋」
「おほんだれフィナンシェ」を召し上げれ。**

奈良田では、小正月、玄関先にオホンダレを飾ります。男女一対になった木の人形で、魔除けの意味があります。このオホンダレをモチーフに、早川産のえごま・雨畑茶を使ったフィナンシェをつくりました。お土産としてももってこいの一品です！

価格／2本セット500円
透明パッケージ入り6本セット1,800円
※お持ち帰り可
お問い合わせ：早川町奈良田1064-43
☎0556-20-5556

**奈良田の里内山城屋にて
「早川の昔巡り～西山地区～」古写真展開催！**

昭和28～32年頃・奈良田集落移転前などの写真を展示致します。開催予定は、新緑が美しくなる頃。詳しくは、早川町HPまたは、鍵屋HPなどでご確認ください。
【早川町HP】<http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/>
【鍵屋HP】<http://cafe-kagiya.com/>



**5月3日 山笑う心躍る 春の早川を満喫しよう！
南アルプス早川山菜まつり**

毎年恒例、春の恵みを味わえるお祭り。たくさんの山菜を直売する他、特産品や農産物の販売、子どもも遊べる広場や、ゲストに山本譲二さんを迎えた歌謡ショー等、様々な催しが行われます。お問い合わせの上、ぜひお越しください！



日時／2017年5月3日(祝)
場所／町民スポーツ広場
時間／9:00～14:00

<問い合わせ>

早川町役場振興課
電話：0556-45-2516

早川町が
生き残る道は
自然を守ることにある

西山温泉 元湯 **蓬莱館**

〒409-2702 山梨県南巨摩郡早川町湯島 73
TEL: 0556-48-2211(代)/FAX: 0556-48-2366

奈良田温泉
七不思議の湯
白根館

日本秘湯を守る会々員
日本温泉湯宿を守る会々員

〒409-2701 山梨県南巨摩郡早川町奈良田 344
電話 0556-48-2711
FAX 0556-48-2770
www.nukuyu.com/shiraneikan/

西山温泉
全館源泉掛け流しの宿
慶雲館

〒409-2702 山梨県南巨摩郡早川町西山温泉
TEL 0556-48-2111
FAX 0556-48-2611 <http://www.kefuncan.co.jp>

早川町 **望月石材店**
☎0556-45-2601

身延町 **飯富展示場**
☎0556-42-4440

〒400-0606 山梨県南巨摩郡富士川町十谷 4249
電話 0556-27-0224
ファクシミリ 0556-27-0227

十谷上湯温泉
源氏の湯

日本秘湯を守る会々員 www.nukuyu.com/genji-yu/

新築、改築、マイホームの事なら何でもおまかせ

日本建築のプロフェッショナル

株式会社 **望月工務店**

〒409-2713 山梨県南巨摩郡早川町保 1766
TEL・FAX 0556-45-2661



「町制施行 40 周年記念 目で見えるはやかわの風景と歴史」(発行：早川町)より

「風の神送り」は、「風邪の神送り」ともいわれ、落語の演目にもなっている。風邪にも神様がいることにも驚くが、その神様を川に流して村人の無病息災を願う行為も興味深い。早川の暮らしの中には、良い神も悪い神も含め、生活を取り囲む有形無形全てのものに神が宿っている。その神々と上手につき合う心得が、山の暮らしの魅力の源なのだろう。(鞍打大輔)

これは、京ヶ島集落の祭りや行事の様子をまとめた「京ヶ島集落の生活」(文/望月金光、編集/望月芳※読みやすさを考慮し筆者加筆)で描かれた風の神送りの様子である。写真は昭和36年12月8日に執り行われたときのもので、撮影場所は常昌院の前。お寺から出発し、子どもたちが「これから村を練り歩くぞ」と張り切っている時ではないだろうか。

『毎年12月8日の午後、「風の神送るなあ」と書いた紙を何枚もきれいにしつるした笹を持って、子どもたちがお寺に集う。午前中、当番が竹を骨組みに杉の葉で御輿を作り、それを大きい子どもが四人で担ぐ。長老たちを先頭に、一同は鉦(カネ)と太鼓に合わせて大声で「風の神送るなあ」と練り返しながら村



京ヶ島の風の神送り

(昭和36年、都川地区京ヶ島集落にて撮影)

やまだらけ定期購読のお願い

今号で80号を迎えた「やまだらけ」。今後とも「山の暮らしの価値」と、それを後世に守り伝える人々の活動を応援して参ります。やまだらけは、広告料と会員の皆様の会費で成り立っています。会員の皆様には、やまだらけを毎月お届けいたします。会員として、この取り組みを支えてください。

【年会費】正会員：10,000円 賛助会員：3,000円

【振込先】ゆうちょ銀行 ○二九店
当座 0095644

【名義人】特定非営利活動法人
日本上流文化圏研究所

読者の声

- 身延町も、クマ、サル、シカ、イノシシと動物園かサファリパークのような状況になってるようです。ジビエというおしゃれですね。(身延町Yさん)
- 獲物をちゃんと食べるのは、猟師であることへの拘り。県のガイドラインを守り、猟場まで決めるのは職業としての熟慮と受け取りました。(八千代市Sさん)
- 鹿肉のことについて、種々お話を頂きありがとうございました。美味の肉を感謝しながら頂きます。(匿名希望さん)

編集部：ジビエには、被害を受ける人、獲る人、

食べる人、動物を守る人、それぞれの立場・思いが交錯します。どれが正解とは言えませんが、早川ジビエの取り組みも今の時代の人と獣の折り合いの付け方の一つなのでしょう。



日新火災海上保険 代理店

幡野保険事務所

〒409-3306
山梨県南巨摩郡身延町夜子沢4020
TEL 090-8014-1337
FAX 0556-42-3073

地域発展のお手伝い！地域の暮らしを守る！ 早邦建設株式会社



【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 645-27
TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288
【生コンクリートプラント】TEL.0556-45-2700
<http://www.soho3000.com/>

ファール先生の昆虫教室

本能のかしこさとおろかさ

文・奥本大三郎
絵・やました こうへい

朝日小学生新聞の人気連載が本になりました！『ファール先生昆虫記』に描かれた昆虫の奥深い世界が楽しく味わえる一冊です。
定価：本体1,800円(税別)
ISBN978-4-591-15031-3



ポプラ社 〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1 TEL03(3357)2212

On sunny days
we can see
Mt. Fuji by
Gekkado.



二十四節気手帳
24seasons
Notebook
発売中です

f 雨宮 和久

月未堂 TEL(0556)22-0445

早川にあるたくさんの祠や信仰を調べたい、と始まった今回の特集でしたが、出てくる出てくる様々なお話。とても調べきれませんでした。皆さんのお住まいの地域にも、よく似た風習や、ちょっと変わった風習など、ありませんか？情報をお待ちしています！(大久保実香)

山を覗けば宝の山
【やまだらけ】

発行元／NPO法人日本上流文化圏研究所
住所／山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727
電話／0556-45-2160 ファクシミリ／0556-45-2268
<http://www.joryuken.net/>